

新築・増改築時には必ず漏電遮断器を取り付けましょう！



水に濡れたり、断線しているために「漏電」している電気機器に触ると、体の中を通して地面に電気が流れてしまうことがあります。これが「感電」です。感電はとても危険で、家庭の電気でも場合によってはショック死することもあります。

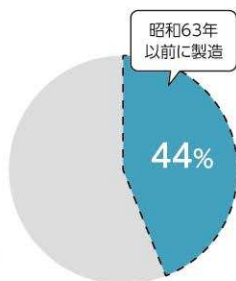
感電事故防止のためにアース（接地電極）と漏電遮断器が必要です。漏電した場合にもアースがあれば、アースを通して電気を大地に逃がします。また漏電遮断器は漏電したことを検知して、自動的に電気を止めてくれます。

中性線欠相保護機能付きに取り替えを！

単相3線式（3本の電線で送電する）で電気をお使いいただいているご家庭では、中性線に異常が起きると、電圧が上昇して電気機器の寿命が縮まったり、故障したりします。これらの事故防止のため、「中性線欠相保護機能付き」漏電遮断器への取り替えをおすすめしています。

中性線欠相保護機能が付いているかは本体のラベルをご確認ください。

昨年は約44%のお客さまが昭和63年以前に製造された中性線欠相保護機能が付いていない漏電遮断器をお使いでした。



※令和5年度工事結果より

アースの必要な電気機器は？



洗濯機



エアコン



屋外コンセント

その他

給湯ボイラー、井戸ポンプ、庭園灯など。屋外・軒下や水気・湿気のある場所で使う電気機器など。

大地震に伴う電気火災防止に役立つ感震ブレーカーを取り付けましょう！

「感震ブレーカー」は、大地震発生時に設定値以上の揺れを検知して、ブレーカーやコンセントの電気の供給を遮断することができます。

●主な感震ブレーカーの種類



※感震ブレーカーの設置に際しては、急に電気が止まっても困らない対策が必要です。医療用機器や防犯機器、非常灯、オートロック等の常時電源が必要となるものは、別途停電に対処できる電源を備えてください。また、夜間時の照明確保のため、懐中電灯などの照明器具を常備しましょう。

●感震ブレーカーの基本動作（分電盤タイプの場合）

地震感知後に警報を発し、3分が経過すると、主幹漏電ブレーカーを自動遮断します。
電気が遮断されるまでの時間的猶予を使って、照明を確保することで、安全に避難することができます。

地震感知後、3分以内に停電が発生した場合は、復電直後に主幹漏電ブレーカーを自動遮断します。
電気器具が倒れていないか等の安全を確認してから通電することにより、通電火災を防ぐことができます。

当協会会員の電気工事店もしくは住宅電気工事センターに電気設備診断をしてもらい、安心して電気を使えるようにしておきましょう。

※当協会ホームページ(<https://znkan.jp/>)をご覧ください。



アンケート（2024年10月31日締切）にご協力ください。
〈二次元バーコードからアクセスして下さい〉

アンケートにお答え頂いたお客様の中から抽選で50名様にQUOカード(1,000円券)をプレゼントいたします。
なお当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。

